

1. 継続教育研修

研修名	継続教育研修	
開催日時	プログラム参照	
受講者数	267名 (会員 217名 81.2%、非会員 50名 18.7%) (内訳 保健師 0名、助産師 4名、看護師 243名、准看護師 19名、介護士 1名)	
研修形態	集合	
教育目的	1) 看護専門職として高い倫理観に基づき、看護実践能力の向上をはかる。 2) 看護専門職としてのキャリア発達を促進し、変化する社会や地域のニーズに対応できる能力を養う。 3) 他職種と連携・協働し看護職の役割を発展させる能力を養う。	
講師・内容	プログラム参照	講義・演習

1. プログラム

4つの力	日程	テーマ	研修形態	定員	ラダーレベル	ねらい	内容	講師
ニーズをとらえる力	6/20(火) 10:00~16:00	看護に活かす臨床推論 ～見逃してはならないその兆候～	集合	50	II～III	臨床推論を学び、臨床現場に活かすことができる	臨床推論とは/臨床推論の基礎/予防できる急変/危険を察知するための症状の理解と必要な看護	高知医療センター 救急看護認定看護師 大森 康之
	7/4(火) 9:30~12:30	せん妄の理解と看護	集合	60	II～III	せん妄の病態を理解し、予防・ケアに役立てる	せん妄とは/せん妄のアセスメント/せん妄の治療/せん妄の予防・ケア(事例を使って)	高知大学医学部附属病院 精神看護専門看護師 小笠原 麻紀
ケアする力	8/2(水) 10:00~16:00	「褥瘡ケアに強いナースになろう」 基礎編	集合	60	II	褥瘡予防の重要性や、褥瘡ケアを実践する上で必要な基礎知識・技術を学ぶ	褥瘡発生の予測/スキン・ケア/褥瘡経過評価(DSIGN-R)/褥瘡発生後のケア/栄養管理/事例	社会医療法人近森会近森病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 安松和美
協働する力	11/8(水) 10:00~16:00	スタッフの育成を支援するコーチング	集合	50	II～III	目標達成のため、相手の強みや持ち味を引き出すコミュニケーションスキルを学ぶ	若者の特徴、承認/ほめる/叱る理論と演習	有)AEMエディカル 代表 野津 浩嗣
	8/29(火) 10:00~16:00	医療現場に活かすプレゼンテーション ～相手に伝えるセンスを磨く～	集合	50	II～III	相手に効果的に伝える技法を学ぶ 臨床現場・他職種連携・地域連携に活かす	プレゼンテーションの基本構成/テーマ/自分の考えを伝える/まとめ/資料の作り方	高知県立大学看護学部 助教 池内 香
	11/15(水) 13:30~16:30	おとなの発達障害～職場での具体的な 対応方法を学ぶ～	集合	50	II～III	大人の発達障害について理解を深め、職場での支援方法を学ぶ	大人の発達障害とは/発達障害の特性/発達障害の理解と対応/職場での支援	放送大学高知学習センター 客員准教授 岡本 真知子
	12/9(土) 10:00~16:00	社会人基礎力の育て方・かわり方 ～指導者・リーダークラスの看護師に求められる社会人基礎力を高める～	集合	50	II	社会人基礎力育成のために自身及び個人の強みや特性を伸ばすことを学び、指導、リーダーシップの発揮に繋げることができる	・社会人基礎力に関する基礎的知識を習得し、必要性・重要性を理解する ・自己の社会人基礎力向上と自身の教育スキルへの活用を習得する	近森病院附属看護学校 副学校長 平瀬 節子
意思決定を支える力	7/18(火) 9:30~12:30	事例を通して考える看護倫理～倫理的課題にどう取り組むか～	集合	50	II～III	臨床現場で直面する倫理的諸問題について考えと共に、倫理的ジレンマへの対応を学ぶ	看護倫理とは何か/看護者として患者の尊厳を守るための意識・態度とは/臨床現場で直面する倫理的諸問題/看護倫理場面の事例検討	高知県立大学看護学部 特任助教 三浦 由紀子
その他	10/11(水) 13:30~16:30	仕業から学ぶ、ストレスとの付き合い方 ～心・体の疲れはとれていきますか～	集合	50		心の整理の仕方を学び、ストレス緩和や自己コントロールの力を身につけることができる。	瞑想・呼吸法からストレス解消法を学ぶ 心の癒え方、自己コントロール方法について理解する。 説法を通して感謝の気持ちを再認識する。	定福寺 住職 釣井 龍秀
	10/12(木) 13:30~16:30	看護職のための情報リテラシー ～情報化社会のシステムを知り、上手に活用するために～	集合	50	II	医療・看護に関わる情報管理を学び、メディアのメリット・リスクを理解し活用できる。	・情報とは、メディアの種類、情報の特性、情報管理における倫理を理解し活用方法を学ぶ ・ネットワーク上の脅威(クーチューブ・SNSを含む)、セキュリティ対策について理解できる。	高知大学教育研究部 医療学系連携医学部 准教授 宮野 伊知郎

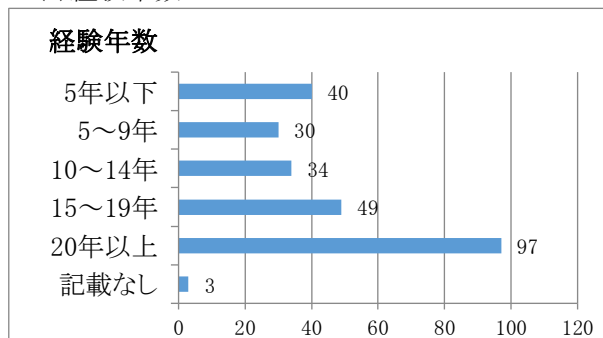
2. アンケート結果

※アンケートは Google ドライブを使用したオンライン上の質問と回答

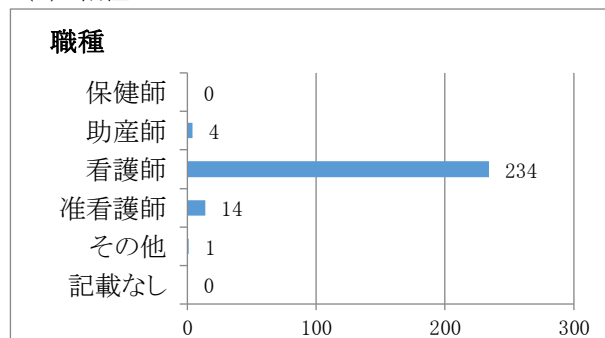
1)10 研修まとめ

参加者数 267 名 回答数 253 回答率 94.7%

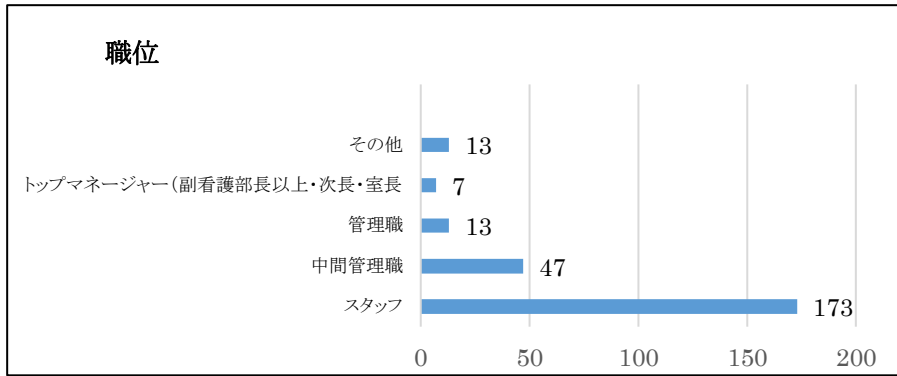
(1)経験年数 n=253



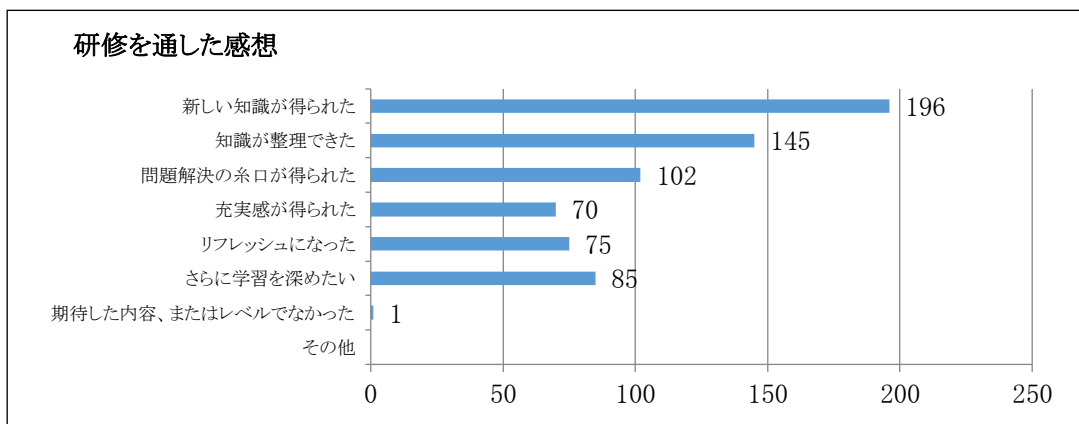
(2) 職種 n=53



(3)職位 n=253



(4)研修の感想(複数回答) n=253



(5)内容評価(10 研修平均) 令和4年度との比較

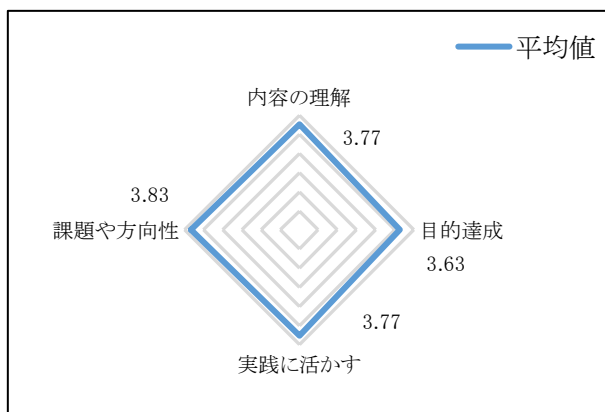
指標 4段階(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)

	令和4年度 n=190 平均値	令和5年度 n=253 平均値
内容の理解	3.59	3.66
目的達成	3.52	3.58
今後に活用	3.51	3.58
課題解決の方向性	3.56	3.66

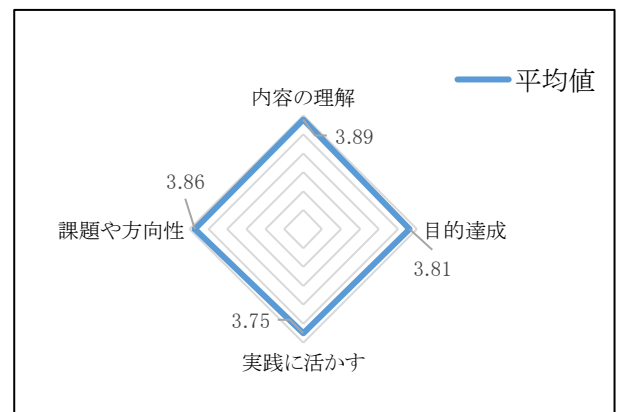
2)研修別内容評価

指標 4段階(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)

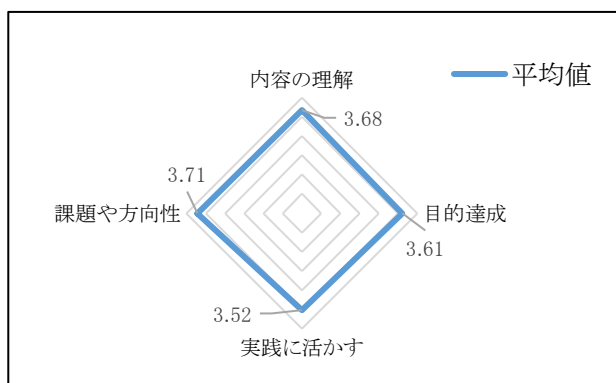
(1)看護に活かす臨床推論 n=30



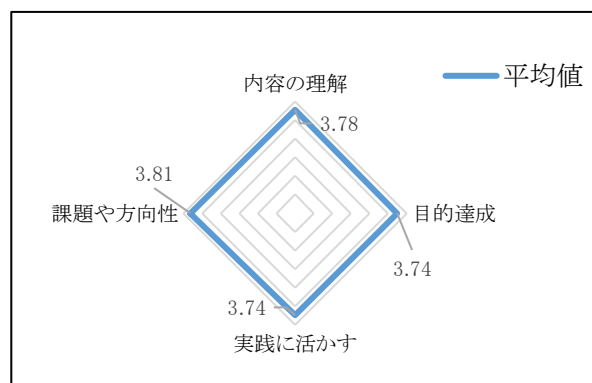
(2)せん妄と理解と看護 n=36



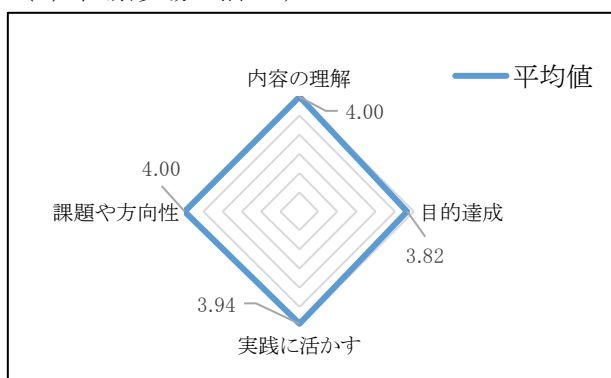
(3) 褥瘡に強い看護師になろう n=28



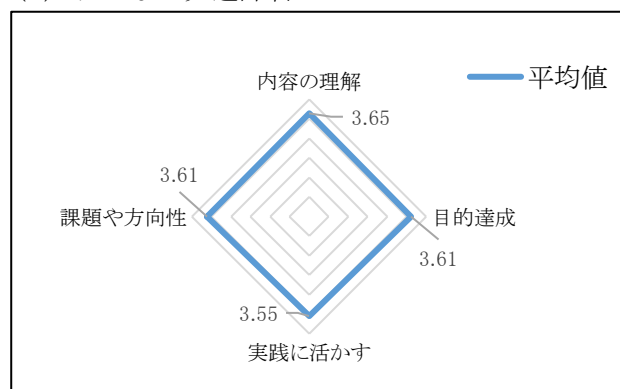
(4) スタッフを支援するコーチング n=32



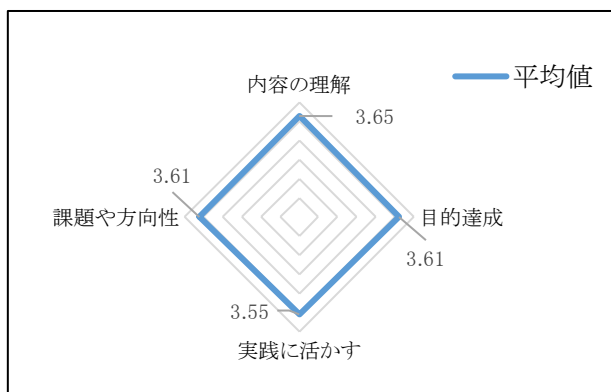
(5) 医療現場に活かすプレゼンテーション n=17



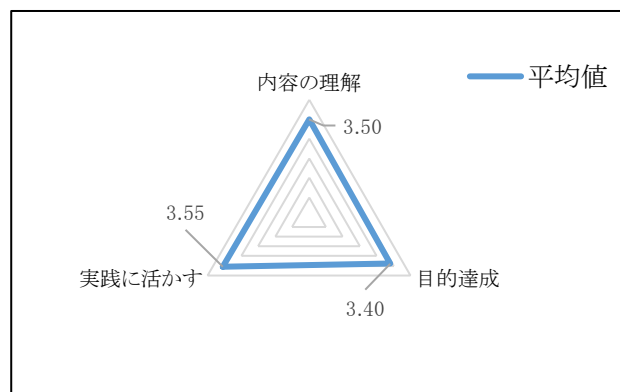
(6) おとなの発達障害 n=31



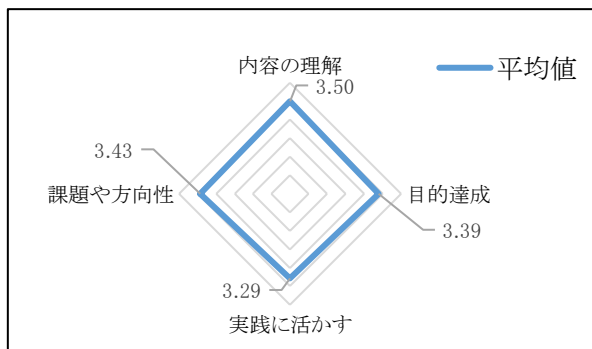
(7) 社会人基礎力の育て方・かかわり方 n=14



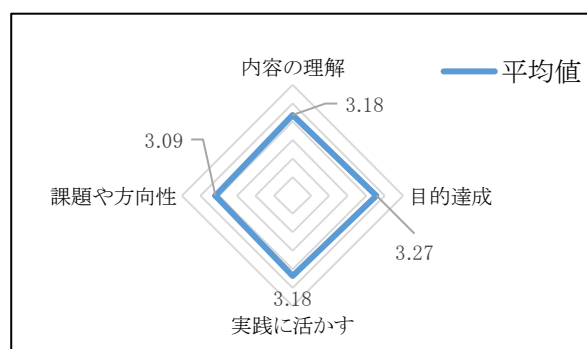
(8) 事例を通して考える看護倫理 n=20



(9) 住職から学ぶストレスとの付き合い方 n=28



(10) 看護職の為の情報リテラシー n=11



3)研修担当者コメント

「JNA ラダーを構成する4つの力」に沿って計 10 研修を企画した。本年度は講師と受講者また受講者同士

のリアルタイムでのコミュニケーション(質問や意見交換)を図り、研修効果を高めることを目的とし、全研修を集合研修での開催とした。研修内容の 4 段階評価では研修毎に差はあるが昨年より評価は高く、集合開催は効果があったと考えられる。しかし、受講者数は延べ数 287 名で定員に対し 55.1%であった。定員数の満たない研修が多いのが課題である。

今後はさらに現場のニーズに沿った研修を企画していく。